

## 標準委員会 第15回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2012年2月29日（水） 10:00～12:15

2. 場 所 日本原子力学会 会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 岡本（部会長），萩原（副部会長），吉田（幹事），石塚，上野，笠原，北島（10:30～出席），越塚，坂本，宿谷（10:20～出席），西田，沼田，日比，宮坂，山内，山口（16名）

（代理出席委員） 佐田 幸一（電中研/市川），大野 修司（日本原子力研究開発機構/堺），東 利彦（関西電力/浦上）新保 仁（東京電力(株)/吉澤）（4名）

（欠席委員） 金子，岩崎（2名）

（説明者） 平尾幹事（放射線遮へい分科会），初岡，鳥居，福土廃止措置耐震安全作業会委員，湊廃止措置耐震安全作業会常時参加者（5名）

（オブザーバ） 工藤 清一（三菱重工(株)）  
新崎 雅志（原子力エンジニアリング）（2名）

（事務局） 谷井

4. 配付資料

ATC15-0 議事次第

ATC15-1 前回議事録（案）

ATC15-2 人事について

ATC15-3 公衆審査の報告について

「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準（案）：20XX」

ATC15-4-1 「ガンマ線ビルドアップ係数」決議投票の結果について

ATC15-4-2 「ガンマ線ビルドアップ係数：201〇」の制定について

ATC15-4-3 「ガンマ線ビルドアップ係数：201〇」

ATC15-4-4 「ガンマ線ビルドアップ係数：201〇」（案）に対するコメントと対応について

ATC15-5 標準策定スケジュール(案)

ATC15-6-1 標準委員会の今後の活動のあり方について 中間報告（案）

ATC15-6-2 基盤・応用技術専門部会標準の発行状況（2012.02.29現在）

ATC15-7 「実用発電用原子炉施設等の廃止措置時の耐震の考え方」標準策定の概要

5. 議事内容

事務局から，開始時，委員22名中，代理委員を含めて18名が出席しており，成立に必要な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC15-1）

事務局から、前回議事録（案）について説明があり、前回議事録（案）は承認された。

(2) 人事について

事務局から、資料ATC15-2に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

1) 専門部会

①委員の退任【報告事項】

吉澤 勇二(東京電力株)

②新委員の選任【決議事項】

新保 仁(東京電力株)

審議の結果、新保氏の選任が決議された。

2) 分科会

①委員の退任【報告事項】

廃止措置分科会

井口 幸弘 ((独)原子力安全基盤機構)

②委員の選任【承認事項】

廃止措置分科会

石倉 武 (NUPEC)

川崎 智 ((独)原子力安全基盤機構)

黒木 松雄 (関西電力株)

澁谷 朝紀 (原子力安全・保安院)

審議の結果、石倉、川崎、黒木及び澁谷氏の選任が決議された。

(3) 【公衆審査報告】「発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準（案）：20XX」（ATC15-3）

事務局から、ATC15-3に基づき、公衆審査に意見がなかったことが報告された。

(4) 【基盤・応用技術専門部会書面投票結果の審議】「ガンマ線ビルドアップ係数」（ATC15-4-1～ATC15-4-4）

事務局から、ATC14-5-1に基づき、基盤・応用技術専門部会書面投票において可決されたことが報告された後、平尾放射線遮蔽分科会幹事から、ATC14-5-2-2～ATC15-4-4に基づき、「ガンマ線ビルドアップ係数」の書面投票意見への対応について説明が行われた。

審議の結果、意見対応に対する質疑内容及び本会議で提出されたコメントを反映し修正は編集上の修正であり、本会議で提出されたコメントを反映した内容を標準委員会へ報告することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・附属書Cにおいて、誤差や精度といったタイトルや表記について、ここは統計量でなく、比較対象との比を扱うことから、代わりに変動割合、変動幅と表現して修正されたい。  
→ 拝承。
- ・附属書Cにおいて「良く一致する」等と表現する根拠については、脚注に説明を追加する形で対応されたい。  
→ 拝承。
- ・附属書F表F. 3において、CiをSI単位のBqに改めるのに $[7.4 \times 10^{10}]$ は $[3.7 \times 10^{10}]$ の誤りである。また、表中の数値を全て $3.7 \times 10^{10}$ で除してBqあたりとするのが適当ではないか。その場合、単位を無次元とするより[photons/s/Bq]と明記する。  
→ 拝承。
- ・頁によって行間幅の異なる部分がみられる。  
→ 再度見直して統一する。
- ・最初のまえがきや委員会等の名簿や日付について更新を要する。  
→最終的に標準事務局の方で制定時に対応する。

(5) 【審議】標準策定スケジュール(案)について (ATC15-5)

事務局から、ATC15-5に基づき、基盤・応用技術専門部会の標準策定スケジュール(案)について、各分科会幹事から予め提示されている案について説明が行われた。審議の結果、シミュレーション技術分野の標準名称「シミュレーションの信頼性に関するガイドライン」(仮称)について、24年度から作業部会にて検討することを記載して、3月8日の標準委員会へ報告することが決議された。

(6) 【審議】標準英訳化優先順位付けについて (ATC15-6-1～ATC15-6-2)

事務局から、ATC15-6-1～ATC15-6-2に基づき、以下の内容を説明した後、本専門部会での標準英訳化の順位付けを行って欲しい旨の説明をおこなった。

- ①標準委員会では、これまで策定・発行された標準及び作成中、審議中、今後作成予定等も含めて、英訳する順位付けを行い、それに従い順次英訳していく予定である。
- ②今回、各専門部会での標準英訳化の順位付けを行って欲しい。

審議の結果、以下の基盤・応用専門部会としての標準英訳化の優先順位は以下とするが決議された。

第1位：ガンマ線ビルドアップ係数 (制定予定)

第2位：原子炉炉施設の廃止措置の計画 (改定予定)

第3位：発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための風洞実験実施基準:2009 (AESJ-SC-P003:2009) (発行済)

発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル

計算実施基準（公衆審査終了）

(7) 【中間報告】「原子力発電所廃止措置時の耐震の考え方」（ATC15-7）

初岡廃止措置耐震安全作業会委員から ATC15-7 に基づき、原子力発電所廃止措置時の耐震の考え方について中間報告の説明が行われた。

審議の結果、本会議で提出されたコメントを反映した内容を標準委員会へ報告することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・廃止措置時では設備維持の軽減等の観点から、耐震クラスをより緩和すべき。  
→今後標準を作成していく上で、今回の意見も参考にする。

6. その他

次回専門部会は、追って連絡することとなった。

以上